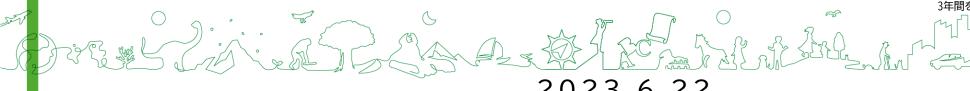
「ペット業界が果たすべき使命」をサポートするアニコムグループ戦略

猫24万頭のデータをベースとした

「入って健康になる保険」について



イメージです。本人は歯磨きが嫌いです。



2023.6.22

アニコム ホールディングス株式会社



目次



第1章 戦略策定

第1節 ペット業界が果たすべき使命

- 1. 世界の規制動向
- 2. 他業界との対比から
- 3. ペット業界固有の使命
- 4. 過去に果たした使命の一例

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題

- 1. 傷病発症の状況~防げる傷病があるか
- 2. 予防可能性
- 3. 注力すべきは「口腔内ケアと腸内ケア」

第2章 具体的戦略

第1節 口腔内ケア

- 1. 歯周病の発症状況 ~ 何と0歳から
- 2. 歯周病は万病の元
- 3. 個別疾患との関係
- 4. 何と猫でも
- 5. 何故、0歳から発症?
- 6. 他の疾病予防も
- 7. モチベーション施策の重要性
- 8. 人間社会への還元

第2節 腸内ケア

- 1. 「フードと便」の関係
- 2. 腸内細菌叢と加齢
- 3. 悪玉菌と疾病
- 4. 悪玉菌はどこから来た?
- 5. 腸内細菌叢は椅子取りゲーム~多様性と悪玉菌
- 6. お腹「健康スコア」と損害率
- 7. お腹「健康スコア」が高いと翌年の損害率は低い
- 8. モチベーション施策
- 9. お腹「健康スコア」アップのための食事サポート
- 10. フードの変更による腸内細菌叢の変化(多様性)
- 11. お腹ケアの推進で動物福祉を更に前進させる

第3章 持続的な成長に向けて

- 1. 持続的価値創出メカニズム~アニコムグループ全体像
- 2. 価値創出のエンジン「一人一特許戦略」
- 3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化

第1章 戦略策定

第1節ペット業界が果たすべき使命





目次



第1章 戦略策定

第1節 ペット業界が果たすべき使命

- 1. 世界の規制動向
- 2. 他業界との対比から
- 3.ペット業界固有の使命
- 4. 過去に果たした使命の一例

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題

- 1. 傷病発症の状況~防げる傷病があるか
- 2. 予防可能性
- 3. 注力すべきは「口腔内ケアと腸内ケア」

第2章 具体的戦略

第1節 口腔内ケア

- 1.歯周病の発症状況 ~ 何と0歳から
- 2. 歯周病は万病の元
- 3.個別疾患との関係
- 4. 何と猫でも
- 5. 何故、0歳から発症?
- 6. 他の疾病予防も
- 7. モチベーション施策の重要性
- 8. 人間社会への還元

第2節 腸内ケア

- 1. 「フードと便」の関係
- 2. 腸内細菌叢と加齢
- 3. 悪玉菌と疾病
- 4. 悪玉菌はどこから来た?
- 5. 腸内細菌叢は椅子取りゲーム~多様性と悪玉菌
- 6. お腹「健康スコア」と損害率
- 7. お腹「健康スコア」が高いと翌年の損害率は低い
- 8. モチベーション施策
- 9. お腹「健康スコア」アップのための食事サポート
- 10. フードの変更による腸内細菌叢の変化(多様性)
- 11. お腹ケアの推進で動物福祉を更に前進させる

第3章 持続的な成長に向けて

- 1. 持続的価値創出メカニズム~アニコムグループ全体像
- 2. 価値創出のエンジン「一人一特許戦略」
- 3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化

世界では

ペットショップでの生体販売が禁止となる傾向に フランス (2024年1月~)、アメリカNY州 (2024年12月~)等







日本でも

販売可能週齢(8週齢)規制、 生涯6回出産規制、従業員一人当たり15頭規制等



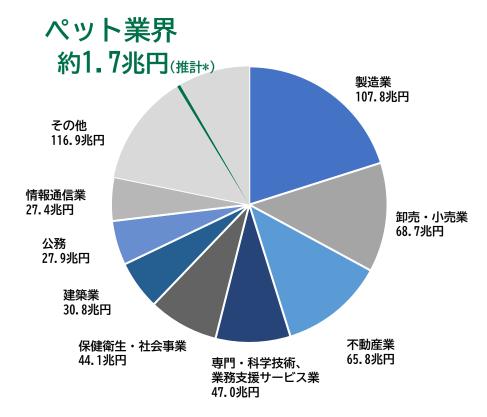




業界の自主規制が 適切に為されていれば、 規制強化の必要はない。 世界中で、規制が 相次いでいるが、 内容は模索中。 ペット業界自体の社会的 使命が明確化されておら ず、あるべき規制も明確 化し辛い。 日本から、「ペット業界が果たすべき使命」を明確化。よりよい規制 (ルール)を世界に発信。 ペット業界から世界に貢献していく。

第1節 ペット業界が果たすべき使命 2. 他業界との対比から anicom

(1)全業界におけるペット業界の状況



536兆円 (名目GDP合計)

(内閣府_経済社会総合研究所「国民経済計算年次推計」)

*ペット業界推計は、矢野経済研究所 <a href="https://www.yano.co.jp/press-release/show/press-id/3053を参照。" https://www.yano.co.jp/press-release/show/press-id/3053を参照。



(2)例えば、損害保険業界の場合

自動車は文明の利器であるが、事故を起こす可能性がある。 保険がこのリスクをカバーすることで、人々が車を自由に 運転する豊かな社会の実現の一翼を担っている。



即ち、損害保険業界は 「人々が自由で豊かに生活できる社会を 維持する使命」を背負っている。

(3)ペット業界の場合

全業界の中で唯一、食用や使役に供しない 動物を一般家庭に提供し、その生活を サポートしている。



ペット業界も固有に課せられた 果たすべき社会的使命を負っているはず。

3.ペット業界固有の使命

人間は、走る速さが群を抜いて速い、眼が良い、鼻が利く等々の生物学的な領域において他の生命対比で優れている訳ではなく、か弱い生命であると私たちは考えています。 しかしながら、生命進化の証の一つである環境適応能力を最も高いレベルで獲得したのは人間であるとも考えています。砂漠から熱帯、高山、極地方に至るまでの様々な環境 に対し、その生息域を一属一種で広げているのは人間だけだからです。

では、何故、人間だけがそのようなことを可能にしたのか。それは、か弱いが多様な個性を持つ人間同士が、相互に協力し合うことで、他の生命が産み出し得なかった、社 会学的子孫とも言える「発見・発明等の科学技術」を産み出し、それを個を超えて伝達(遺伝)させることに成功したからであると考えています。

人間は個性を生かした組織を形成し、さらには、業界といった更に大きな分業構造を構築した上で、各業界同士が相互に連携し合い、より豊かな文明社会を構築するべく、 それぞれの社会的使命を果たす必要があると認識しています。

これまでペット業界は、他の業界とは関連性が少ない、ペットから愛や癒しを受けるペットを愛する者のための閉じた業界であると受け止められてきました。

しかしながら、人間社会が作り上げた科学技術の影響力は極めて大きく、使い方を誤ると、人間は勿論のことペットを含めた全ての生命、さらには、それら全ての生命を産み育んできた母なる環境ごと破壊する危険性を持つに至っています。そして、今まさに、人間の身勝手な行動でその危険性が現実のものとなる恐れに直面しています。このような社会情勢にあって、生命そのものを扱う「ペット業界」においては、他の業界が果たし切れていない、生命の存在自体等の認識を巡る以下の3つの固有の使命を果たすことが社会的に課せられていると考えています。

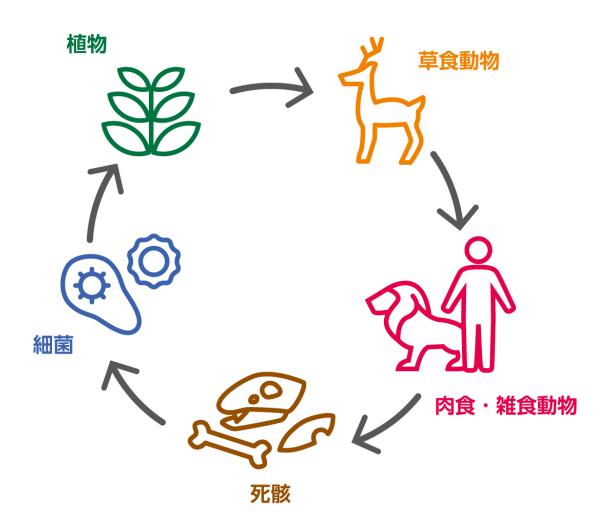
(1)生命の相互関連性

- ~ 地球は人間だけのものではない
- (2)無償の愛の重要性
 - ~ 現実となった戦争危機を回避すべく
- (3)自然に学ぶ必要性
 - ~ 人間の社会学的進化の促進



anicom

(1)生命の相互関連性 ~ 地球は人間だけのものではない



人間は文明進化の恩恵を受ける中で、人間だけでも生きていけると勘違いしがちです。しかし、実際には、植物がいなければ呼吸もできず、死に絶えてしまいます。即ち、生命はどの生命種であっても、単独では生存することができず、全ての生命の相互関連性の輪の中にあって、はじめて安定した生存を可能にすることができるという生命そのものの在り方を理解することが重要と考えています。

また、地球上の全ての生命は、予期できない環境変化に対し、その多様な相互関連性を武器に生き延びてきました。 全ての生命が今後も生き続けるためには、多様な生命体の相互関連性が必要不可欠です。

ペット業界の使命は、身近なペットの存在を通して、 「生命に貴賎なし、多様な生命の相互関連性によってのみ、 全生命の生存を保ち得ること」を人間に理解させていくこ とであると考えています。

3.ペット業界固有の使命

anicom

(2)無償の愛の重要性 ~ 現実となった戦争危機を回避すべく

ペットはオオカミやヤマネコを祖先としながらも、人間にとって好ましい形質だけを受け継ぐように、極めて長い期間をかけ、近親交配を通じた近交弱性によって作出されてきました。謂わば「愛し愛される力100%、一人で生き延びる力0%」とも言える愛の塊のような存在です。

そして、彼らが本来持っていた牙や鋭い爪は、これらの交配の中で失われました。 彼らが一人で生き延びる力を失っていく中、あの愛くるしい瞳や甘え声に乗せられ た「無償の愛」こそが、彼らが生き延びるために人間を惹きつける新たな武器と なったように思われます。

今や、同種同士の殺し合いである戦争危機を目前にした人間に対し、ペットの存在こそが、惜しみない「無償の愛」を提供し、人間社会から戦争リスクを減らし得ることを、ペット業界が社会全体にしっかり伝えていく使命を持っていると考えています。

戦争危機の当事者達は、それぞれの論理を展開することで、双方自己正当化しています。

そもそも「誰かが誰かの命を奪う」といった、全ての命を尊ぶべきであるとする 精神とは真反対なことが何故、起こり得るか。大規模な争いになればなるほど、当 事者である人間同士の環境を破壊するばかりでなく、他の人間や何の罪もない他の 生命を育んでいる環境をも破壊するため、そもそも当事者同士の勝手な論理で議論 し切れる問題ではないことを伝えていくことが重要ではないでしょうか。

ペット業界は、論理だけではコミュニケーションがとり切れない、自分とは異なる感情と生命を宿した愛すべきペットという存在を通じ、動物福祉は勿論のこと、全ての生命を育む環境が土台となっているといった環境保護の重要性を広めるべき社会的使命を負っていると考えています。



▲ウクライナから日本に避難した方のペットの医療支援を実施

愛で心が通じ合える



難しいことを言われても分からない



3. ペット業界固有の使命

anicom

(3)自然に学ぶ必要性 ~ 人間の社会学的進化の促進

人間は、他の生命種と異なり、遺伝子の変化による生物学的進化の方法以外に、科学技術の発見・発明による社会学的進化といった進化手法を手にしています。

しかし、この様々な科学技術の発見・発明は、何を原動力にしているのか。 人類にとって画期的な発見の一つである「万有引力の法則」は、ニュートンが リンゴが木から落ちる自然現象を観察したことをきっかけに発見されたと言わ れています。

そして、その結果が、宇宙産業をはじめとした様々な産業の隆盛にも繋がっています。

人間の社会学的進化の原動力は、人間自身とは異なる自然観察がベースとなっており、センス・オブ・ワンダー(Sense Of Wonder)という感性を身につけ、磨いていくことが、人間の社会学的進化を促進すると考えています。

しかしながら、人間は自身の快適さの追求により、身近な環境から自然の存在を急速に排除し、人工的な環境に置き換え続けています。

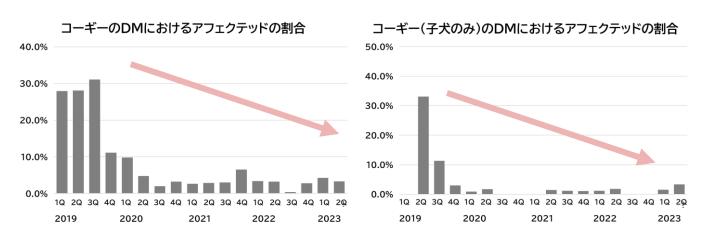
このような状況の中で、ペットの存在自体が現代社会における日々観察し得る自然の代表例であることを社会に伝え、人間の社会学的進化を促進する使命を果たしていかなければならないと考えています。



4. 過去に果たした使命の一例

anicom

ペット業界一丸となって、避けるべき重篤な遺伝病である 犬の変性性脊髄症 (DM) について、 2021年4月に『撲滅宣言』を行うに至っています。



※ 本資料における『撲滅』とは、アニコムグループが提供する遺伝子検査を利用しているブリーダー様またはペットショップ様から 飼い主様のもとへ、当該遺伝子検査で確認できる遺伝病の遺伝子を保有した犬・猫を3ヶ月以上連続して引き渡ししていないことを 言います。



変性性脊髄症(DM):神経症状を呈し、呼吸器系にも麻痺が進行して最終的には死に至ってしまう病気。ウェルシュ・コーギー・ペンブロークやジャーマン・シェパード・ドッグ等に多い。

第1章 戦略策定

第2節ペット保険から見た解決すべき課題





目次



第1章 戦略策定

第1節 ペット業界が果たすべき使命

- 1. 世界の規制動向
- 2. 他業界との対比から
- 3. ペット業界固有の使命
- 4. 過去に果たした使命の一例

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題

- 1. 傷病発症の状況~防げる傷病があるか
- 2. 予防可能性
- 3. 注力すべきは「口腔内ケアと腸内ケア」

第2章 具体的戦略

第1節 口腔内ケア

- 1. 歯周病の発症状況 ~ 何と 0歳から
- 2. 歯周病は万病の元
- 3.個別疾患との関係
- 4. 何と猫でも
- 5. 何故、0歳から発症?
- 6. 他の疾病予防も
- 7. モチベーション施策の重要性
- 8. 人間社会への還元

第2節 腸内ケア

- 1. 「フードと便」の関係
- 2. 腸内細菌叢と加齢
- 3. 悪玉菌と疾病
- 4. 悪玉菌はどこから来た?
- 5. 腸内細菌叢は椅子取りゲーム~多様性と悪玉菌
- 6. お腹「健康スコア」と損害率
- 7. お腹「健康スコア」が高いと翌年の損害率は低い
- 8. モチベーション施策
- 9. お腹「健康スコア」アップのための食事サポート
- 10. フードの変更による腸内細菌叢の変化(多様性)
- 11. お腹ケアの推進で動物福祉を更に前進させる

第3章 持続的な成長に向けて

- 1.持続的価値創出メカニズム~アニコムグループ全体像
- 2. 価値創出のエンジン「一人一特許戦略」
- 3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題 1.傷病発症の状況~防げる傷病があるか anicom



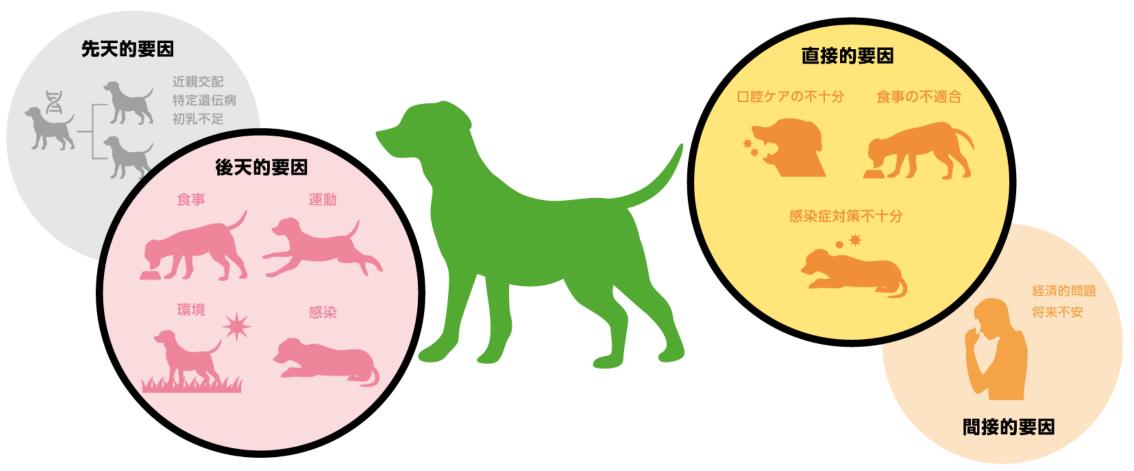
残念ながら、「日々の努力で予防可能な歯周病」がランクイン!

※有病率=請求頭数÷契約頭数

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題 2. 予防可能性

anicom



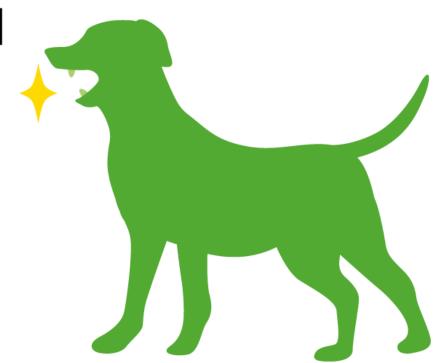


ペットの健康に影響を与える要因として、「遺伝子や、初乳の有無等の先天的要因」と、「バランスの良い食事や適度な運動等の後天的要因」があります。今回の戦略策定においては、飼い主 様と一緒に後天的な努力で変え得る「後天的要因」に注目していきます。

また、後天的要因には、「個々の体調に合わせた食事や、口腔内ケア等の直接的要因」と、「上司と部下の関係、恋愛関係、金銭問題等からくるストレスを起因とした間接的要因」がありますが、 ペットの場合、人の場合とは異なり自分では冷蔵庫を開けてビールを飲む等の自由が与えられていないため、特に「後天的かつ直接的な要因」にフォーカスし、戦略策定を進めていきます。

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題 3.注力すべきは「口腔内ケアと腸内ケア」anicom





「すべての病気は 腸から始まる。」

紀元前5世紀ヒポクラテスの言葉



現代のペットを巡る環境において、その健康に影響を与える「後天的かつ直接的な要因」の中でも、影響力の高い項目は、①口腔内ケアと、②腸内ケアであると考えています。 「歯が命。」と言われるように、口腔内ケアは適切な食べ物の摂取や、全身性の炎症の元となる歯周病とも密接に関連しているにも関わらず、未だ多くの飼い主様において、ペットにおけるその重要性が適切に認識されていないと考えています。また、認識されている場合であっても、ペットの歯列は人間よりも口腔奥深くまである一方で、開口範囲がそこまで広くなく、かつ、口腔内ケアの重要性について、当の本人の理解が得難いため、全歯に対する適切なケアを定期的に行うことは極めて困難な状況にありました。その結果、極めて多くのペットが歯周病等に罹患しており、それが他の疾病発症の遠因となることで、ペットの健康のレベルを大きく低下させていたと考えています。

更に、医聖と呼ばれるヒポクラテスが紀元前5世紀ごろに発したとされる「すべての病気は腸から始まる。」という言葉に代表されるように、腸内ケアの重要性は、口腔内ケアと並び、ペットにおいても、まずもって注力すべき項目であると考えています。

第2章 具体的戦略

第1節 口腔内ケア







第1章 戦略策定

第1節 ペット業界が果たすべき使命

- 1. 世界の規制動向
- 2. 他業界との対比から
- 3. ペット業界固有の使命
- 4. 過去に果たした使命の一例

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題

- 1. 傷病発症の状況~防げる傷病があるか
- 2. 予防可能性
- 3. 注力すべきは「口腔内ケアと腸内ケア」

第2章 具体的戦略

第1節 口腔内ケア

- 1. 歯周病の発症状況 ~ 何と0歳から
- 2. 歯周病は万病の元
- 3. 個別疾患との関係
- 4. 何と猫でも
- 5. 何故、0歳から発症?
- 6. 他の疾病予防も
- 7. モチベーション施策の重要性
- 8. 人間社会への還元

第2節 腸内ケア

- 1. 「フードと便」の関係
- 2. 腸内細菌叢と加齢
- 3. 悪玉菌と疾病
- 4. 悪玉菌はどこから来た?
- 5. 腸内細菌叢は椅子取りゲーム~多様性と悪玉菌
- 6. お腹「健康スコア」と損害率
- 7. お腹「健康スコア」が高いと翌年の損害率は低い
- 8. モチベーション施策
- 9. お腹「健康スコア」アップのための食事サポート
- 10. フードの変更による腸内細菌叢の変化(多様性)
- 11. お腹ケアの推進で動物福祉を更に前進させる

第3章 持続的な成長に向けて

- 1. 持続的価値創出メカニズム~アニコムグループ全体像
- 2. 価値創出のエンジン「一人一特許戦略」
- 3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化



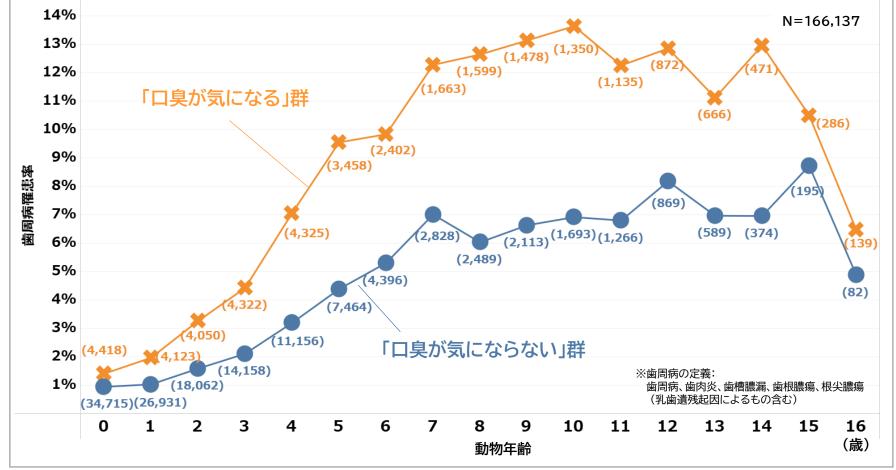
ヒトと異なり、0歳から既に発症!



- ●自覚症状が少ない歯周病は、 ヒトでも罹患者が多く、 謂わば国民病。
- ●他覚症状は口臭であるが、家族でも指摘しづらい・・・
- ●ペットの場合、「お口臭い!」は指摘し易く、ムーブメントを起こし易い。

犬 歯周病年齢別罹患率の状況

()内はデータ数を示す

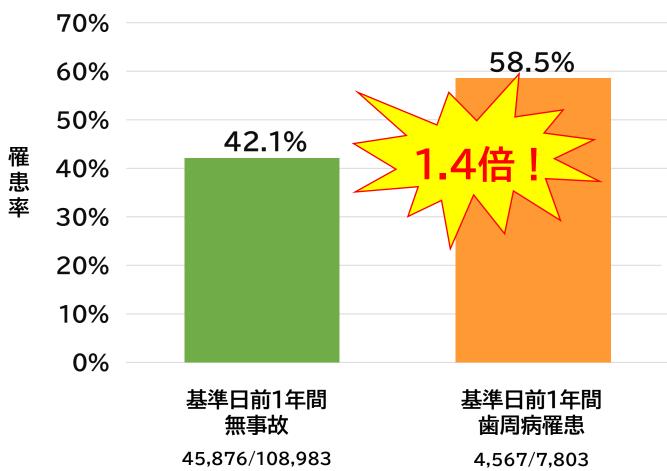


2. 歯周病は万病の元



(1)歯周病罹患群は、その後の全ての傷病*リスクが増大







N=116,786

年齢:0歳~18歳

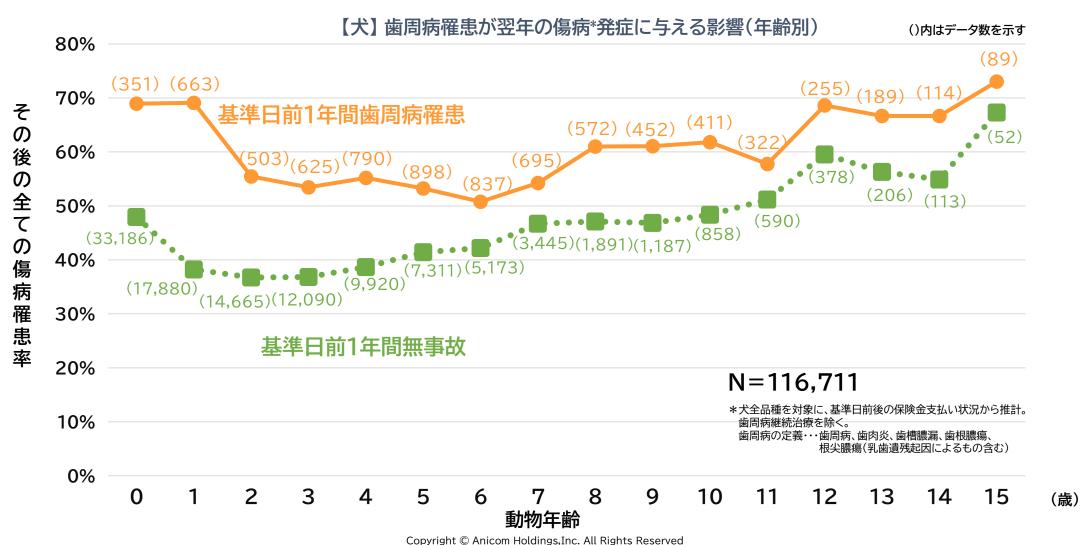
*犬全品種を対象に、基準日前後の保険金支払い状況から推計。 歯周病継続治療を除く。

歯周病の定義・・・・歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、歯根膿瘍、 根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む)

歯周病は万病の元



(2)全年齢で、歯周病罹患群はその後の全ての傷病*発症リスクが増大



2. 歯周病は万病の元



(3)何故、万病の元になるか

口腔内粘膜は細菌によって穿孔されても、かさぶたとならず、傷口は開いたままとなる。結果、歯石内で大量に増殖した歯周病菌や産生された毒素は、常に、全身に供給され続ける。



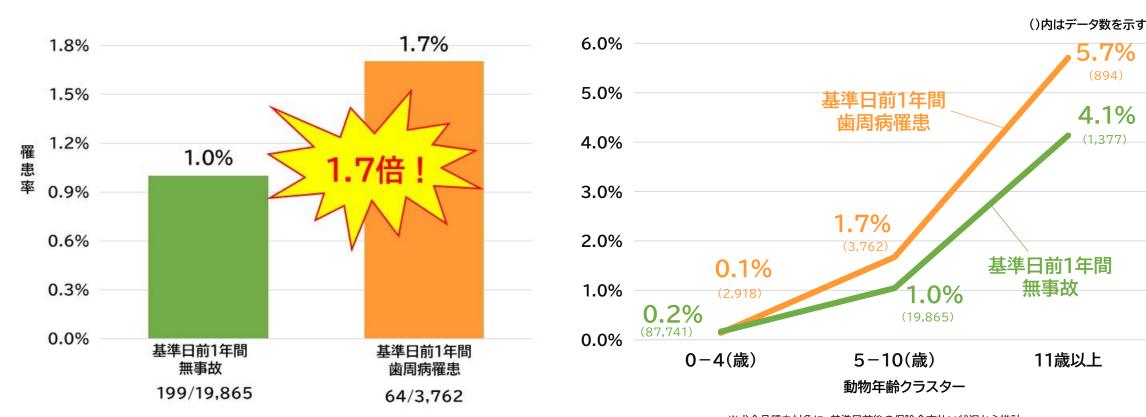
3. 個別疾患との関係

anicom



(1)心臓病との関係

【犬】歯周病と心臓病の関係



犬の心臓病は加齢により罹患率が上昇する疾患ですが、歯周病罹患群は非罹患群に比して 若齢期からの心臓病罹患が見られています。歯周病による心臓病罹患率上昇の影響を表現 するために、5-10歳クラスターにおける両群の心臓病罹患率比較を用いています。 ※犬全品種を対象に、基準日前後の保険金支払い状況から推計。 動物年齢:0~18歳

当該疾患の継続治療は除く。

歯周病の定義:歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、歯根膿瘍、根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む) 心臓病の定義:心不全/心筋症/弁膜症などの心疾患

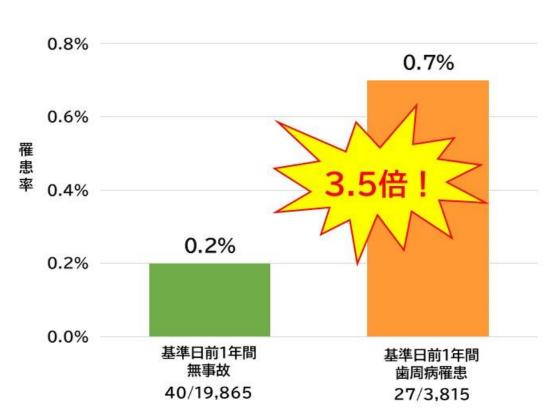
3. 個別疾患との関係

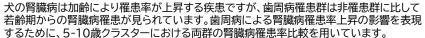
anicom

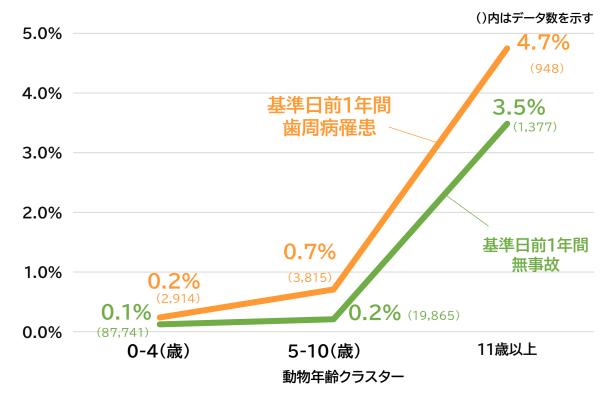


(2)腎臓病との関係

【犬】歯周病と腎臓病の関係







※犬全品種を対象に、基準日前後の保険金支払い状況から推計。

動物年齢:0~18歳

当該疾患の継続治療は除く。

歯周病の定義・歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、歯根膿瘍、根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む) 腎臓病の定義・腎不全(急性・慢性問わない)、腎盂腎炎など

3. 個別疾患との関係

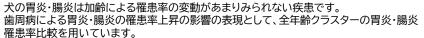
anicom

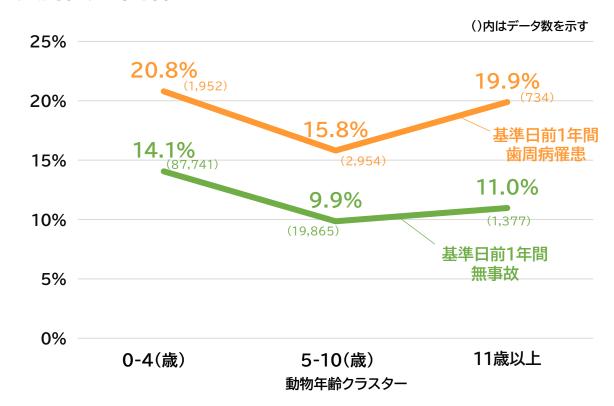


(3)胃炎・腸炎との関係

【犬】歯周病と胃炎・腸炎の関係







※犬全品種を対象に、基準日前後の保険金支払い状況から推計。 動物年齢:0~18歳

当該疾患の継続治療は除く。

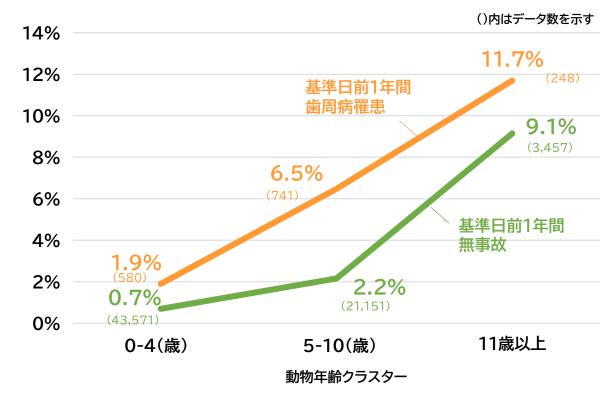
歯周病の定義:歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、歯根膿瘍、根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む) 胃炎・腸炎の定義:胃炎・腸炎(嘔吐・下痢などを含む)



(1)「腎臓病」の元! とも言える状況

【猫】歯周病と腎臓病の関係





猫の腎臓病は加齢により罹患率が上昇する加齢性疾患ですが、歯周病罹患群は非罹患群に 比して若齢期からの腎臓病への罹患が見られています。歯周病による腎臓病罹患率上昇の 影響を表現するために、0-4歳クラスターにおける両群の腎臓病罹患率比較を用いています。 ※猫全品種を対象に、基準日前後の保険金支払い状況から推計。

動物年齢:0~22歳

当該疾患の継続治療は除く。

歯周病の定義:歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、歯根膿瘍、根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む) 腎臓病の定義:腎不全(急性・慢性問わない)、腎盂腎炎など

anicom

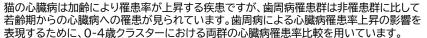
4. 何と猫でも

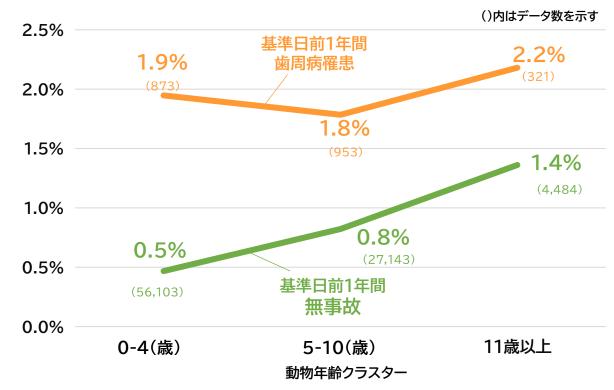


(2)心臓病との関係

【猫】歯周病と心臓病の関係







※猫全品種を対象に、基準日前後の保険金支払い状況から推計。

動物年齢:0~22歳

当該疾患の継続治療は除く。

歯周病の定義・・・・歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、歯根膿瘍、根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む) 心臓病の定義・・・心不全/心筋症/弁膜症などの心疾患

anicom

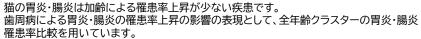
何と猫でも

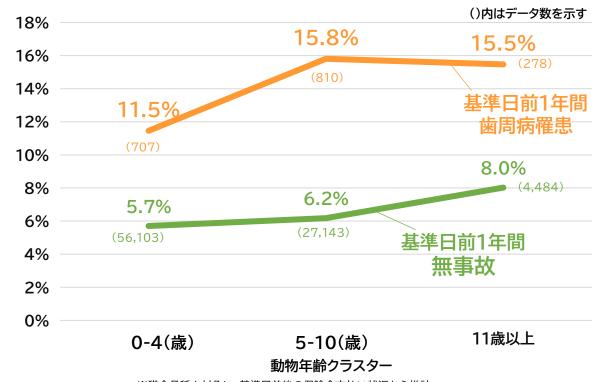


(3)胃炎・腸炎との関係

【猫】歯周病と胃炎・腸炎の関係







※猫全品種を対象に、基準日前後の保険金支払い状況から推計。

動物年齢:0~22歳

当該疾患の継続治療は除く。

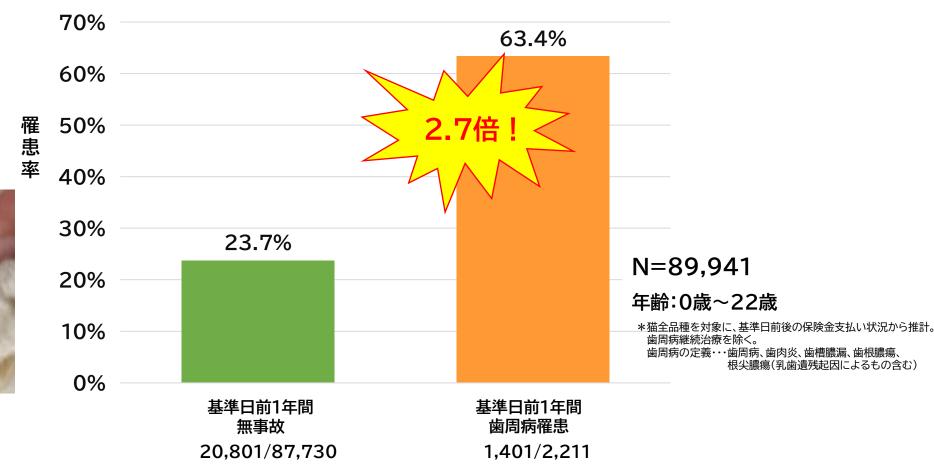
歯周病の定義・・・歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、歯根膿瘍、根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む) 胃炎・腸炎の定義:胃炎・腸炎(嘔吐・下痢などを含む)



根尖膿瘍(乳歯遺残起因によるもの含む)

(4)結果、猫においても、歯周病は万病の元

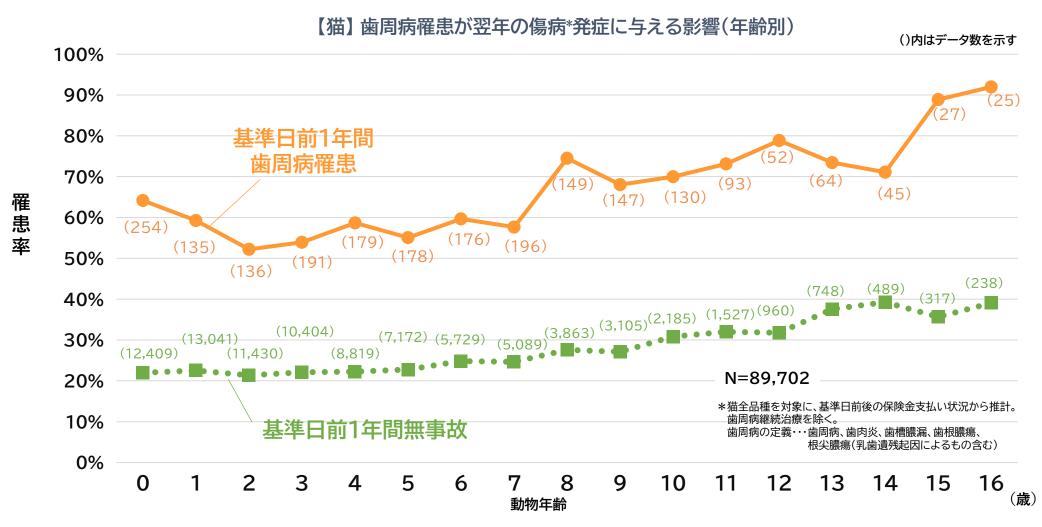




Copyright © Anicom Holdings, Inc. All Rights Reserved

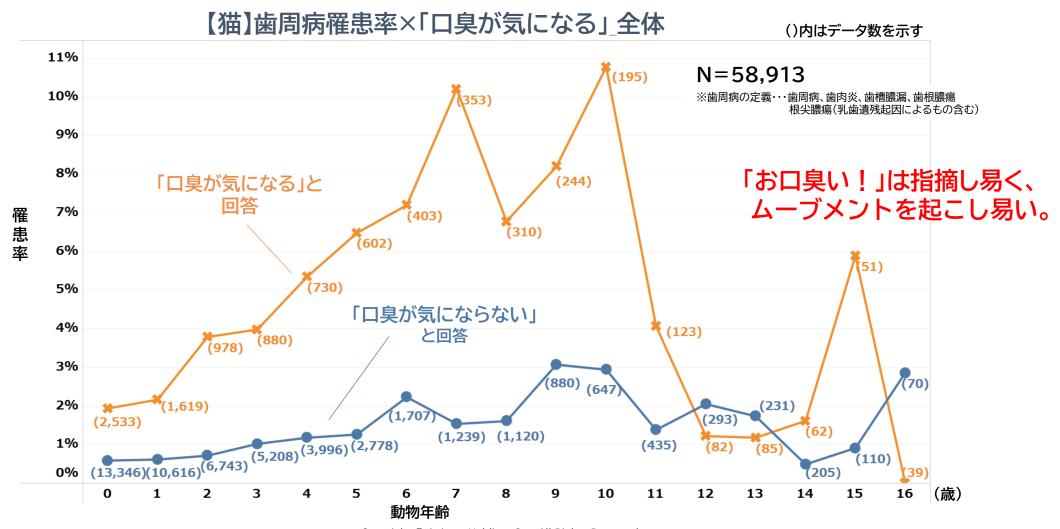


(5)全年齢で歯周病が全傷病リスクを増大





(6)犬同様に、口臭が気になる群が存在



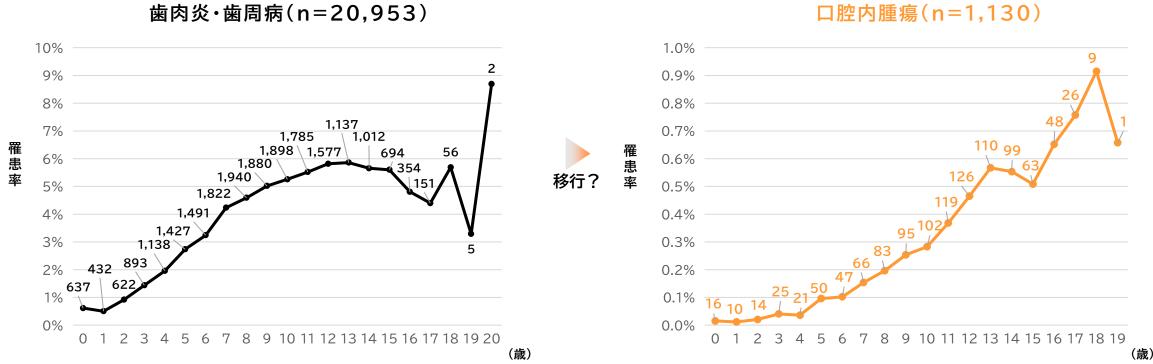
5. 何故、0歳から発症?



ヒトの口腔内pHは6.5~7.0と、中性またはわずかに酸性に傾いていることが多いのに対し、犬・猫の場合は、逆にpH7.0~8.0と中性から弱アルカリ性となっています。これらの要因により、犬・猫においては、酸性環境を好む虫歯菌による虫歯には、ヒトと異なりほぼ罹患しません。一方で、アルカリ環境下で、カルシウムが沈着しやすく歯石が形成されやすくなっているのに加え、歯周病菌はアルカリ性を好むため繁殖しやすく、歯周病に罹患しやすい口腔内環境となっています。

さらに、犬・猫ともに生後3週齢頃から乳歯が生えはじめ、生後半年前後からは永久歯も生えはじめますが、乳歯が抜けることなく永久歯と併存 (乳歯遺残)し、歯列構造が複雑になることも多いことから、さらに歯石が付きやすい状況になる傾向にあります。

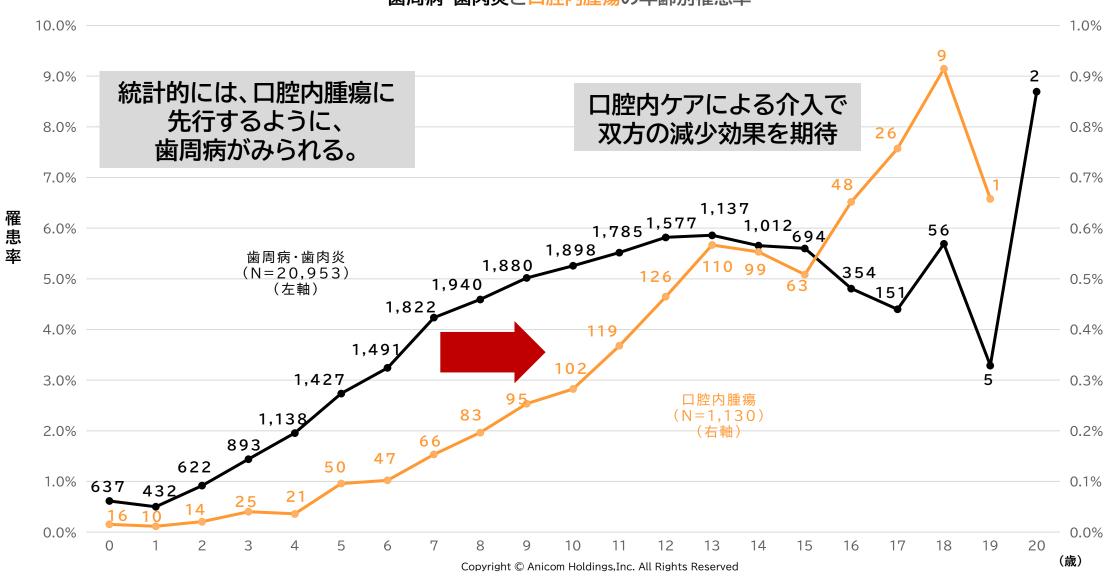
このような状況であったにもかかわらず、アニコムグループを始めとするペット業界全体として、幼齢期からの口腔内ケアの必要性をこれまで強く周知しきれていませんでした。この結果、多くの飼い主様において、幼齢期からの口腔内ケアが十分には行われず、本来予防可能な歯周病を、 犬・猫においては、何と0歳から徐々に発症させることとなってしまったと考えています。



6. 他の疾病予防も



歯周病・歯肉炎と口腔内腫瘍の年齢別罹患率



7. モチベーション施策の重要性





どうぶつだけでなく、 飼い主様とともに競い合う、 全国口腔内ケアコンテスト等 を行っていくことで、

飼い主様とともに、 おロスッキリ〜!を 実現してまいります。

(歯磨きはできてしまえば、 ある意味簡単。 しかし簡単なことも毎日 行いつづけるためには、 モチベーション施策が重要である と考えています。

歯周病菌を含めた口腔内細菌叢 の見える化を含め、モチベーション 施策を講じてまいります。)



イメージです。本人は歯磨きが嫌いで、3年間をかけて 指で優しくこすらせてくれるようになりました。 (諦めない愛情が重要です)









当社代表 小森が飼養するミーアキャット (みーたん・8歳) の歯磨き歴

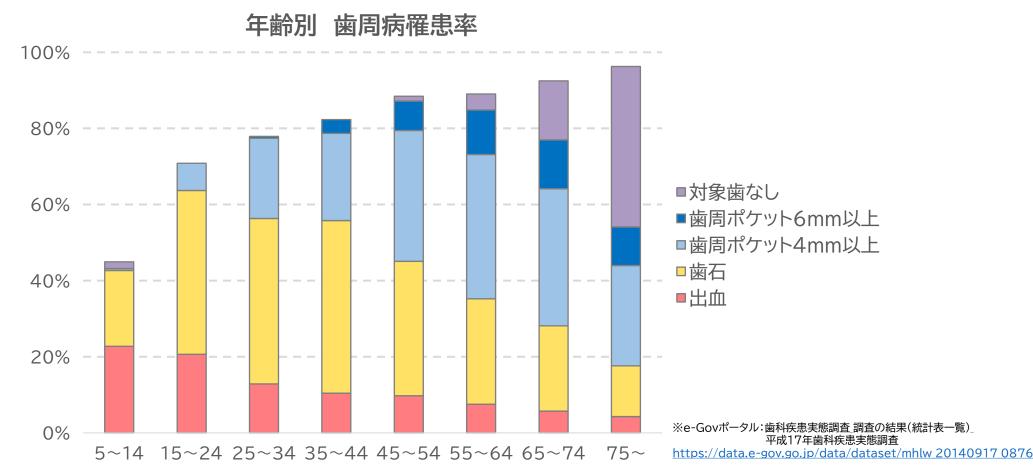
8. 人間社会への還元



(1)ヒトの歯周病は国民病!

(20歳以上の8割以上が歯周病と言われるほど)

自覚症状が少なく、加齢に応じて増えるため、高齢化社会における最大の課題の一つ



8. 人間社会への還元



(2)ペットでできることは、人間社会でも実装可能

年間国民医療費 約43兆円

2020年度実績(※1)



何と、 「歯肉炎及び 歯周疾患*2 <u>約2.5兆円」</u>

(予防が出来れば、 大幅に世界観が変わる) 歯周病も、モチベーション施策等で、 効率的に予防できることをペットで示す。

大学や、各企業様との協働により、 ペットでできたことを、 人間でもできることを示す。

※1 厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/20/dl/data.pdf

※2 健康保険組合連合会

https://www.kenporen.com/toukei data/pdf/chosa r03 11 01.pdf

開始済みの共同研究について

アニコムと大阪大学、アース製薬が共同研究を開始

https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2023/20230619/

ペット業界で、日本を、世界を明るくする!



APPENDIX







初産の場合

コントロール群

ほぼ全ての母親が37週 以降に出産した。

歯周病群

約12%の母親が妊娠期間 37週未満であった。

2回目以降の場合

コントロール群

ほぼ全ての母親が37週 以降に出産した。

歯周病群

約24%の母親が妊娠期間 37週未満であった。

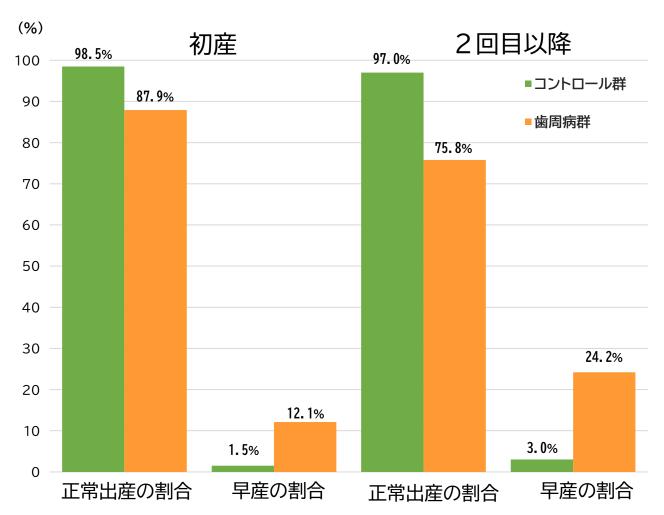
2回目以降の出産において、低体重児を出産した母親は コントロール群では3%であったのに対し、歯周病群で は18%であった。

【出典】

タイトル: The Relationship Between Maternal Periodontal Status of and Preterm and Low Birth Weight Infants in Iran: A Case Control Study 著者名: Mohammad Reza Karimi, 1 Jalaleddin H Hamissi, 2 Simin Rafieyan Naeini, 3 and Mojgan Karimi 3 詳細: Glob J Health Sci. 2016 May: 8(5): 184-188, Published online 2015 Sep 28.

※グラフは出典に掲載されているものをもとに当社にて再描写しています。

早産と母親の歯周状態との関係



第2章 具体的戦略

第2節 腸内ケア





目次



第1章 戦略策定

第1節 ペット業界が果たすべき使命

- 1. 世界の規制動向
- 2. 他業界との対比から
- 3. ペット業界固有の使命
- 4. 過去に果たした使命の一例

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題

- 1. 傷病発症の状況~防げる傷病があるか
- 2. 予防可能性
- 3. 注力すべきは「口腔内ケアと腸内ケア」

第2章 具体的戦略

第1節 口腔内ケア

- 1. 歯周病の発症状況 ~ 何と 0歳から
- 2. 歯周病は万病の元
- 3.個別疾患との関係
- 4. 何と猫でも
- 5. 何故、0歳から発症?
- 6. 他の疾病予防も
- 7. モチベーション施策の重要性
- 8. 人間社会への還元

第2節 腸内ケア

- 1. 「フードと便」の関係
- 2. 腸内細菌叢と加齢
- 3. 悪玉菌と疾病
- 4. 悪玉菌はどこから来た?
- 5. 腸内細菌叢は椅子取りゲーム~多様性と悪玉菌
- 6. お腹「健康スコア」と損害率
- 7. お腹「健康スコア」が高いと翌年の損害率は低い
- 8. モチベーション施策
- 9. お腹「健康スコア」アップのための食事サポート
- 10. フードの変更による腸内細菌叢の変化(多様性)
- 11. お腹ケアの推進で動物福祉を更に前進させる

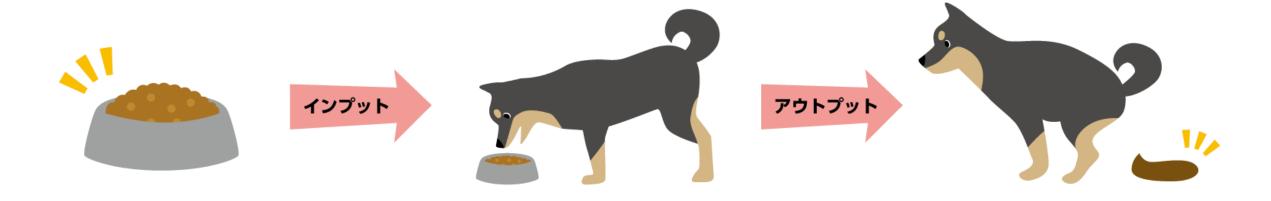
第3章 持続的な成長に向けて

- 1. 持続的価値創出メカニズム~アニコムグループ全体像
- 2. 価値創出のエンジン「一人一特許戦略」
- 3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化

1. 「フードと便」の関係



食事 → 便通 → 腸内細菌 → 各種疾病統計



便通は、古くから、ヒトにおいても「便は身体の健康状態を表すお便り」と言われてきたように、健康状態を表すバロメーターであると考えています。 アニコムグループでは、2016年から便の中に含まれる腸内細菌叢を見ることで、疾病予防や健康維持に繋げるべく研究を続けてまいりました。 この度、犬16万頭以上の腸内細菌叢と保険金支払いデータから、健康に対するプラスの寄与度が高いものを善玉菌とし、逆の傾向にあるものを悪玉菌と

することで、全ての年齢帯に亘り損害率の高低を腸内細菌叢を用いて安定的に説明する「お腹健康スコア判定モデル」を開発することに成功しました。 腸内細菌叢は母親の腸内細菌・膣内細菌等を元に母乳成分等の影響受け、初期の細菌叢が形成された後、後天的な要因、特に食事による変更を受け、そ

- 腸内細囷叢は母親の腸内細囷・膣内細囷寺を兀に母乳成分寺の影響受け、初期の細囷叢か形成された後、後大旳な要凶、特に食事による変更を受け、 の後も加齢に応じた変化を行っていくものと考えています。

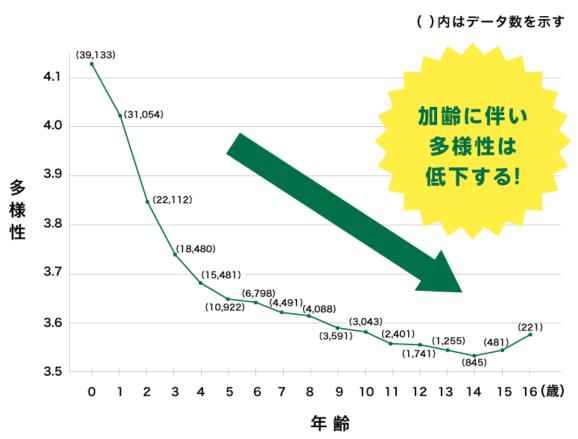
また、同じ食事を摂っていても、腸内細菌叢は個体毎に異なっていることから、個々の腸内細菌叢を見ていくことで、よりよい食生活を実現するための 情報提供を行い得る可能性があると考えています。

個体に合わせた食生活の提案から腸内細菌叢の変容を通じ、更なる健康維持を目指してまいります。

2. 腸内細菌叢と加齢



(1)加齢で腸内細菌叢の多様性は低下



※多様性:腸内細菌叢の多様性の指標である「Shannon Index」をもとに算出 ※N=166.137

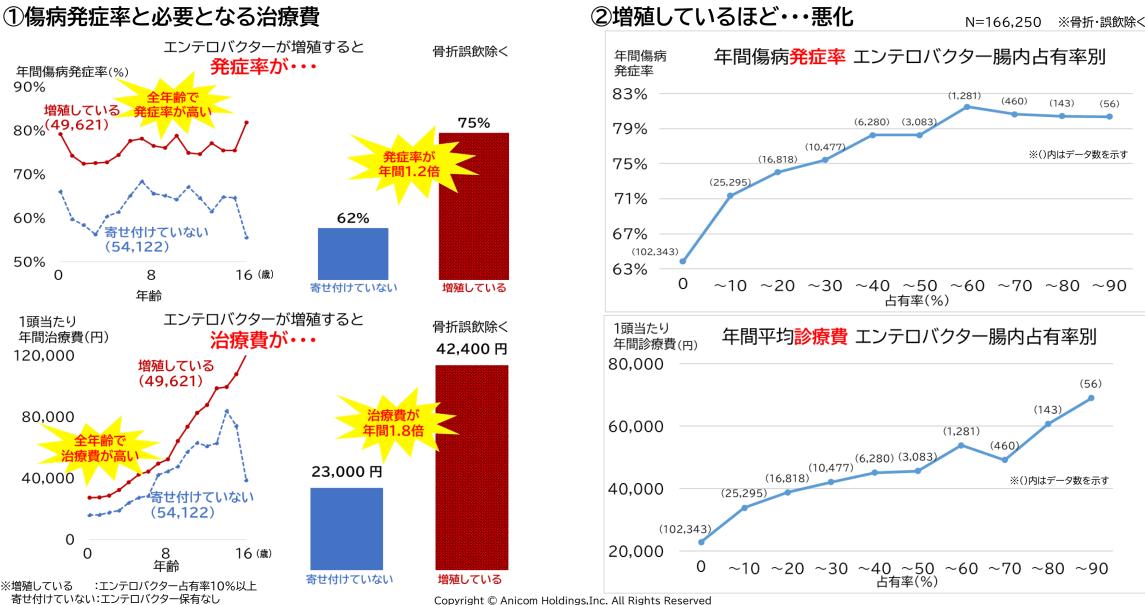
(2)同年齢であっても、多様性が低いほど、 保険金の支払いが多い



anicom

3. 悪玉菌と疾病 (1)エンテロバクター





anicom

3. 悪玉菌と疾病 (2)クロストリジウム



①傷病発症率と必要となる治療費

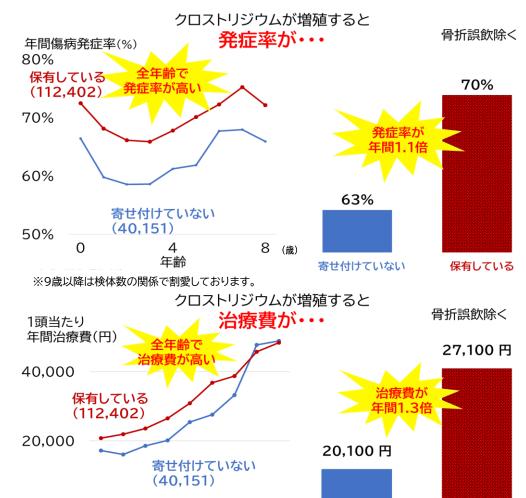
0

※増殖している

0

:クロストリジウム保有あり

寄せ付けていない:クロストリジウム保有なし

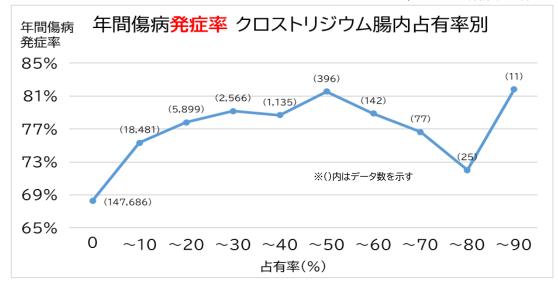


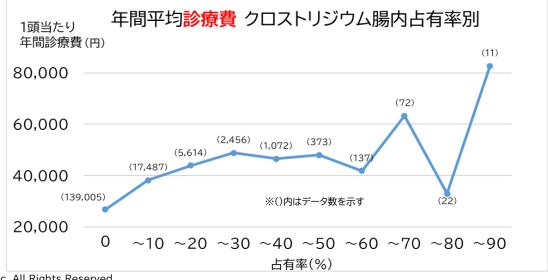
8 (歳)

寄せ付けていない

②増殖しているほど・・・悪化





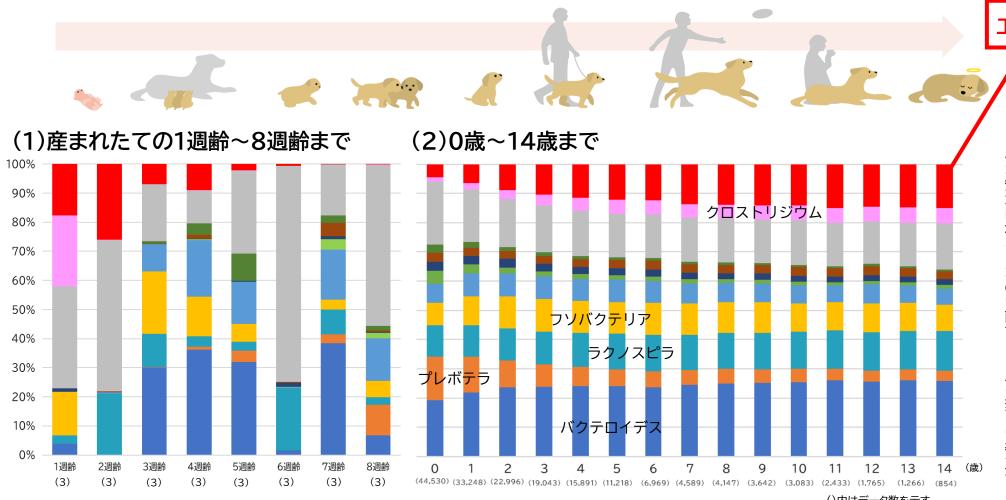


保有している

4. 悪玉菌はどこから来た?



加齢により腸内細菌叢の多様性は低下(善玉菌が減少)し、エンテロバクター等の悪玉菌が増加する



エンテロバクター

腸内細菌叢が加齢によって変化することは、人間や他の動物でも知られていましたが、犬においても、加齢によって安定的に変化する各種細菌があることが分かりました。特に、犬の場合、エンテロバクターの感染成立およびその後の増殖が加齢によって顕著に増加することが確認できました。

更に、前掲(3.(1))の統計で示していますが、エンテロバクターは、ほぼ全ての疾病の発症と増悪に対し、極めて高い相関を有しており、犬にとっての悪玉菌の親分的な存在であると考えています。

また、エンテロバクターが生後どの時点から感染し、増殖しているかを確認するため、出生直後から週次での菌叢の変化を調べました。1・2週齢では何とエンテロバクターが最大占有度を占めていました。しかし、その後は、徐々に他の善玉菌等の占有が増え、結果として、悪玉菌が善玉菌に押し出された形で制菌された菌叢変化が見られています。

()内はデータ数を示す (計:①24 ②175,674)

5. 腸内細菌叢は椅子取りゲーム~多様性と悪玉菌

anicom



出生直後から、亡くなる直前までの各種細菌叢の動きや、それと関連する各種疾病の動向から、当社グループでは、腸内細菌の世界は「善玉菌と悪玉菌が繰り 広げる椅子取りゲームのようなもの」と考えています。

即ち、母親等から受け取った善玉菌達がチーム力を発揮することで、常に、普段生活している環境(通常環境)に存在していて、侵入を試みてくるようなエンテロバクターのような悪玉菌に感染する隙を与えないようにしているということです。

残念ながら、善玉菌の多くは、通常環境に常在しておらず、母親の腸内細菌や膣内細菌、母乳内細菌等を起源とする、もしくは、食品中に僅かに含まれるものがその起源であると考えています。またその多くは、主として食物繊維を分解するものが多く、さらに、各種の善玉菌は自身の栄養源にできる食物繊維の種類も限られています。また、腸内での移動を可能とするような運動性能を持った菌も少なく、謂わば、一人一人は「か弱いベジタリアンのチーム」のような存在であると考えています。その一方で、エンテロバクターのような悪玉菌は、たんぱく質・脂質・食物繊維も分解可能であるとともに、腸内を繊毛等を用いて移動することも可能なものも多く、か弱い善玉菌からすれば万能選手である悪玉菌は、サタンのような存在といえるのではないかと考えています。







椅子取りゲームに勝っている状態

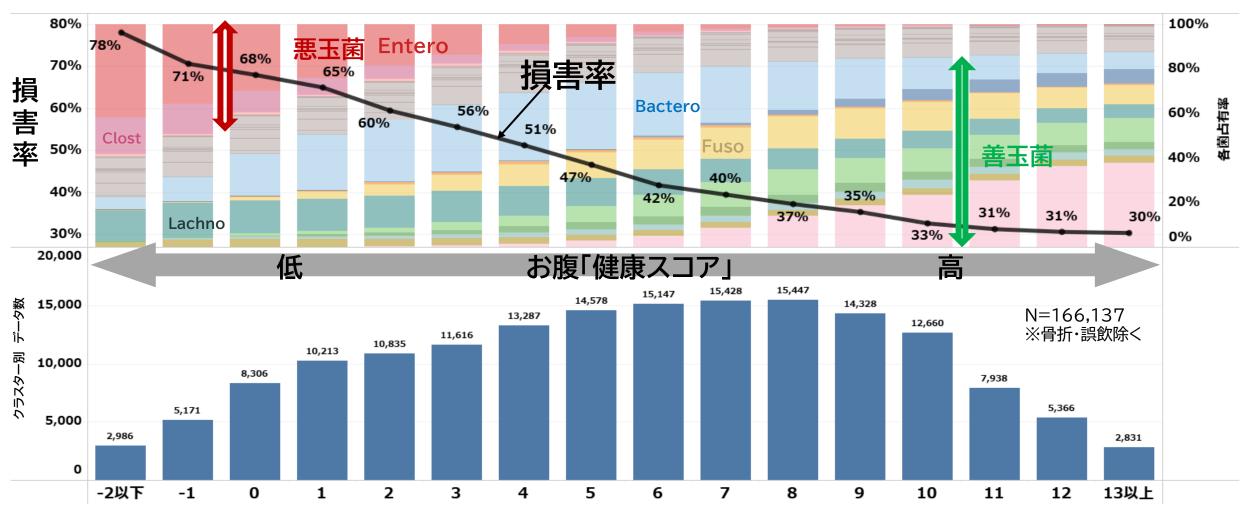
椅子取りゲームが引き分けの状態

椅子取りゲームに負けている状態

anicom

6. お腹「健康スコア」と損害率 (1)全年齢

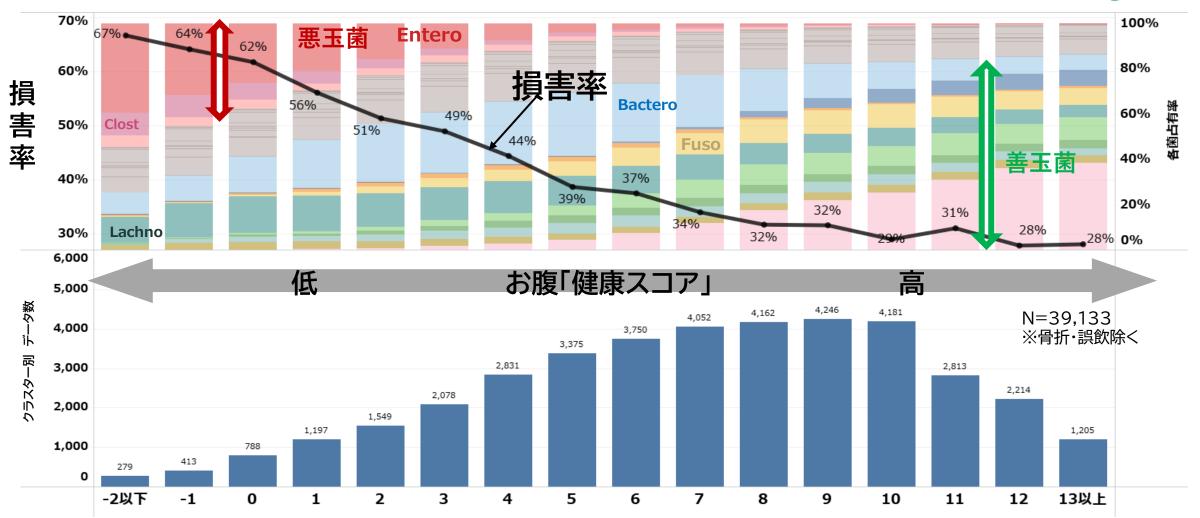




疾病発症率や当該疾病に応じて必要となる治療費に対し、悪影響を与える菌を悪玉菌とし、好影響を与える菌を善玉菌としました。その後、個別の菌ごとの検出有無や全菌叢に占める 占有率、更に各種菌の組み合わせ等をパラメーターとして数値化し、疾病発症率・必要となる治療費に対する説明力を高めるべく各パラメーターをチューニングしたものを、お腹「健康ス コア」として数値化しています。これにより、後天的に腸内細菌叢に影響を与え得ると考えている「食材選択の変更・口腔内ケア」、また、先天的に影響を与え得ると考えている「遺伝子」を 交配の段階からサポートする、更にこれらでは、コントールできないケースについては、再生医療(他家幹細胞移植)等も活用することで、多面的にどうぶつの更なる健康を実現するとと もに、損害率の改善を実現し、収益力を強化していきたいと考えています。

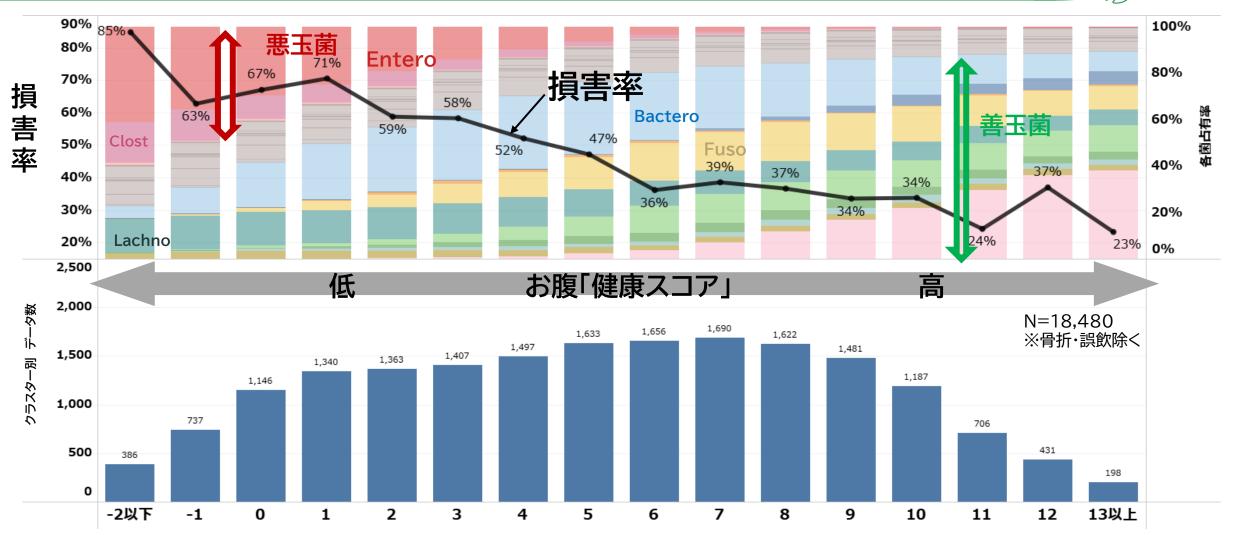
6. お腹「健康スコア」と損害率(2)各年齢別 ①0歳





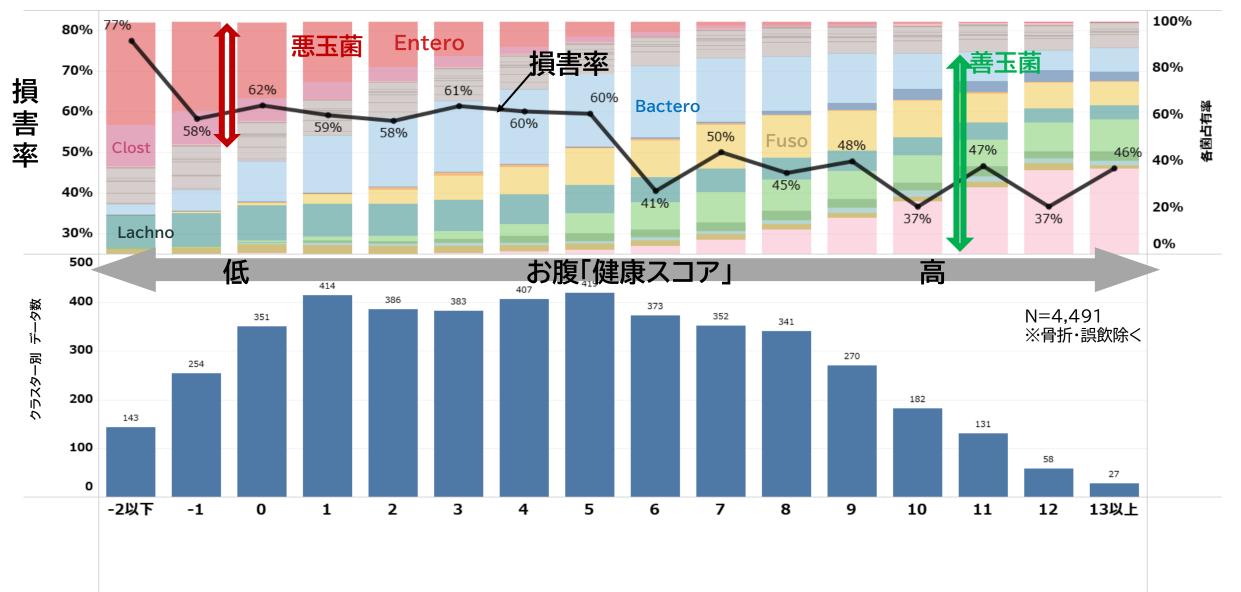
6. お腹「健康スコア」と損害率(2)各年齢別 ②3歳





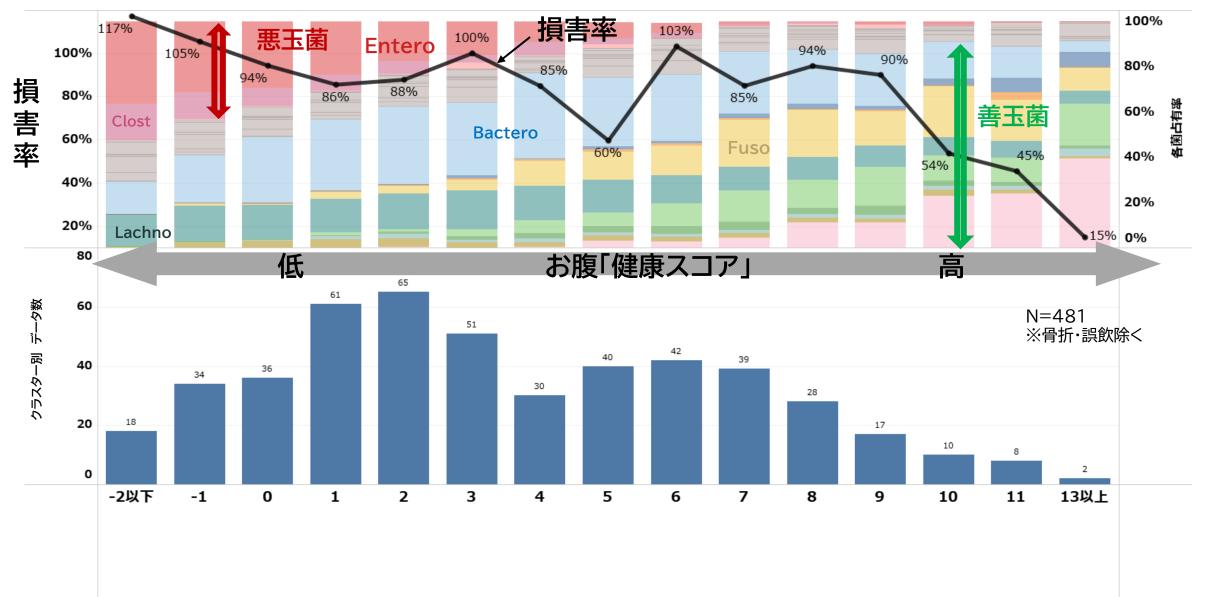
6. お腹「健康スコア」と損害率(2)各年齢別 ③7歳





6. お腹「健康スコア」と損害率 (2)各年齢別 ④15歳



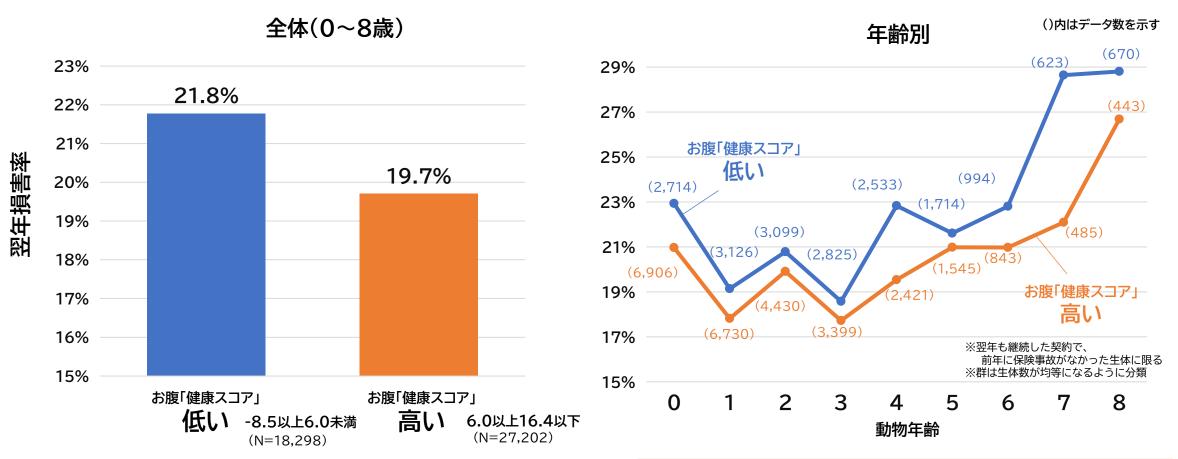


7. お腹「健康スコア」が高いと翌年の損害率は低い





犬 お腹「健康スコア」と翌年の損害率



全ての年齢において、前年のお腹「健康スコア」が高い群ほど、翌年の損害率が低い。

8. モチベーション施策





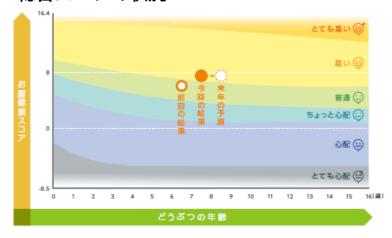
先に述べたとおり、各種の腸内細菌等の検出有無やそれらの占有率、更には各種菌の組み合わせ等をパラメーターと し、疾病発症率・必要となる治療費に対する説明力を高めるべくチューニング行い、お腹「健康スコア」としています。

各菌種ごと等の個別スコア内訳

◎ 無玉蘭		スコア装置	開催期フ	おすすめの成分
● ラクノスピラ	この科の細菌は、主に水溶性食物繊維を分解して、短鎖脂肪酸を作り出します。 この働きは、圏の健康や身体のエネルギー供給に良い影響を与えることが知られています。	-1~1	1	植物由来の 水溶性食物繊維
💮 プレポテラ	主に植物由来の食物繊維を分解して、短顧脳筋酸等の成分を作り出します。	0~2	1	植物由来の食物繊維
🔵 フソパクテリア	主にアミノ酸の分解に関わる菌。人では一般的に服玉飾と言われていますが、犬では梅玉飾であることがわかっています。	0~1	1	オリゴ糖、植物由来の 水溶性食物繊維
(ルミノコッカス	主に植物由来の食物繊維を分解して、短鎖脂肪酸を作り出します。		1	植物由来の食物繊維
🚳 コリオバクテリア	主に軽物由来の食物繊維やポリフェノールを分解して、抗酸化・抗炎症作用のある成分を作り出すことが知られています。	0~1	1	植物由来の食物繊維! ポリフェノール
● その他	有効成分を産生する菌や、そうした菌を増やす菌など。	-0.5~4	0	-
● 果玉田		スコア業器	担義スコア	おすするのほ分
② エンテロパクター	土壌や下水などの環境中に存在し、原染症を引き起こすことが知られています。	-3~1	0	植物由来の 不溶性食物繊維
❤️ クロストリジウム	一部の細菌は病原性を持つことが知られています。	-1~0	-1	発酵食品
₹ その他	悪い成分を産生する菌や、そうした菌を増やす菌など。	-3~0	0	-
苗構成パランス		スコア製団	製得スコア	
善玉蘭のパランス評価	善玉蘭であるラクノスピラ、ブレポテラなどのパランス。	0~2	2	-
悪玉蕾のパランス評価	悪玉筈であるエンテロパクター、クロストリジウムなどのパランス。	0~1	0	_
8. 提 性		スコア教団	豊様スコア	



総合スコアの状況



これまでの当社グループによる腸内細菌叢の検査結果通知は、主に腸内年齢の推定や腸内細菌の多様性の状況等の結果通知であったため、個別具体的な善玉・悪玉菌 の存在を明示するに至っておらず、腸内細菌叢改善に向けたご提案が難しい内容でした。

しかし、この度、従来よりも大規模なデータ分析を行ない、新たな検査結果通知(犬用)を作成しました。これにより、個別具体的な細菌名を明示するとともに併せ て善玉菌・悪玉菌の状態も通知することができるため、検査結果に応じてフード類をご案内するなど腸内細菌叢改善提案が行いやすくなる予定です。

- ▶ 従来の検査結果通知のアルゴリズムにも一定の意味があることから、今後も引き続き使用させて頂きます。
- ▶ 今回新たにご提供させて頂くお腹「健康スコア」は、検査結果通知<追加版>として飼い主様にご提供する予定です。
- ▶ 今後も腸内細菌叢と個別疾患、ホストの加齢や遺伝子との関連、薬剤代謝との関連等、日々研究が進んでいる状況にありますので、適宜最新のバージョンに更新・お届けいたします。

9. お腹「健康スコア」アップのための食事サポート



善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善善		お薦めの食材	
ラクノスピラ	この科の細菌は、主に水溶性食物繊維を分解し、短鎖脂肪酸を 作り出します。この働きは、腸の健康や身体のエネルギー供給に 良い影響を与えることが知られています。	野菜や海藻に含まれる水溶性食物繊維 青魚などに含まれるω3脂肪酸	
プレボテラ	主に植物由来の食物繊維を分解し、短鎖脂肪酸等の成分を作り 出します。	大麦、トウモロコシなどのイネ科の植物に含まれる アラビノキシラン (不溶性食物繊維の一種)	
フソバクテリア	主にアミノ酸の分解に関わる菌。人では一般的に悪玉菌と 言われていますが、犬では善玉菌であることがわかっています。	牛肉、豚肉、鶏肉などの畜肉 特に生食(ローフード)を推奨	
ルミノコッカス	主に植物由来の食物繊維を分解し、短鎖脂肪酸を作り出します。	雑穀等に含まれる難消化性澱粉	
コリオバクテリア	主に植物由来の食物繊維やポリフェノールを分解し、抗酸化・抗炎症作用のある成分を作り出すことが知られています。	植物由来の食物繊維やポリフェノール	
悪玉菌		お薦めの食材	
エンテロバクター	土壌や下水などの環境中に存在し、感染症を引き起こすことが知られています。	母乳に含まれるラクトフェリン、オリゴ糖及び不溶性食物繊維 ※ラクトフェリン:悪玉菌の増殖を抑える。 不溶性食物繊維、オリゴ糖:善玉菌を増やす。	8
クロストリジウム	一部の細菌は病原性を持つことが知られています。	野菜や海藻に含まれる水溶性食物繊維	

10. フードの変更による腸内細菌叢の変化(多様性)

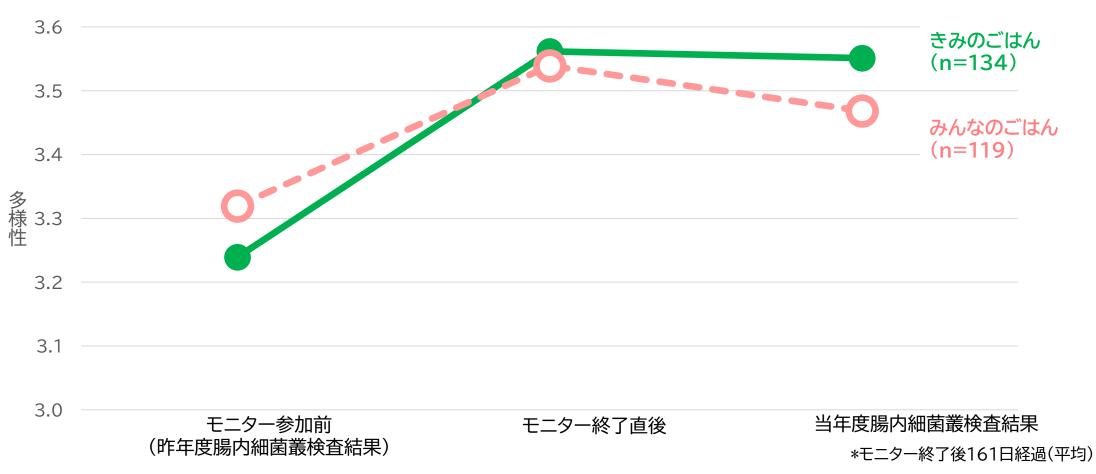
anicom



※モニター調査:腸内細菌叢検査後の犬に向けて、1ヶ月間のモニターフード(アニコムパフェ株式会社が販売する「きみのごはん」「みんなのごはん」)の給餌期間終了後に、再度腸内細菌叢検査を行った。

※モニター参加条件:2022年4月~2022年6月の腸内細菌叢検査結果の内、多様性が「低い」結果であった犬

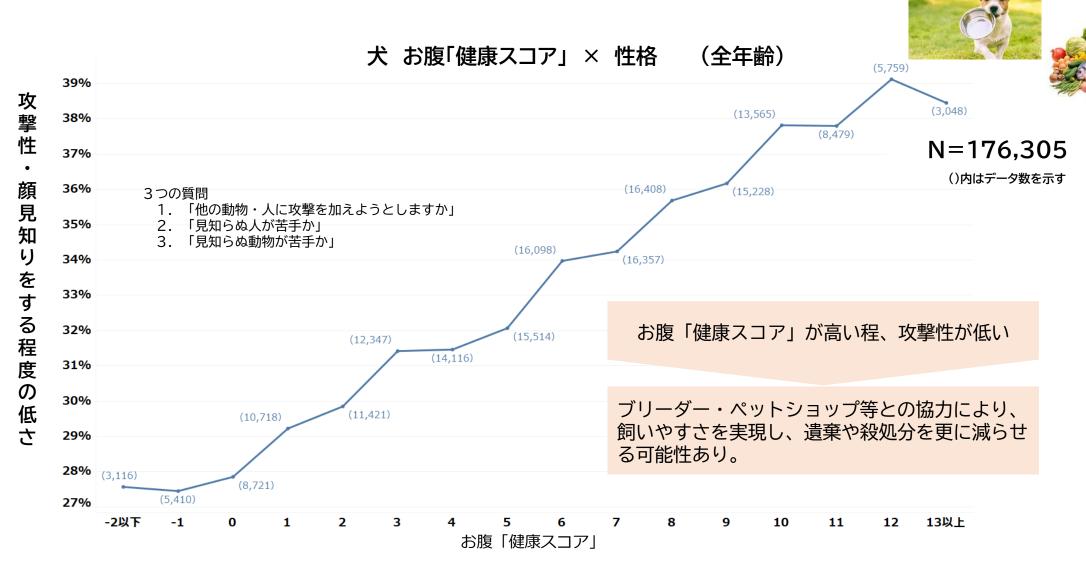
※多様性:腸内細菌叢の多様性の指標である「Shannon Index」をもとに算出



フード変更後に多様性が上昇し、その変化は一定期間経過後も保たれる傾向がみられた

11. お腹ケアの推進で動物福祉を更に前進させる





第3章 持続的な成長に向けて





目次



第1章 戦略策定

第1節 ペット業界が果たすべき使命

- 1. 世界の規制動向
- 2. 他業界との対比から
- 3. ペット業界固有の使命
- 4. 過去に果たした使命の一例

第2節 ペット保険から見た解決すべき課題

- 1. 傷病発症の状況~防げる傷病があるか
- 2. 予防可能性
- 3. 注力すべきは「口腔内ケアと腸内ケア」

第2章 具体的戦略

第1節 口腔内ケア

- 1. 歯周病の発症状況 ~ 何と 0歳から
- 2. 歯周病は万病の元
- 3.個別疾患との関係
- 4. 何と猫でも
- 5. 何故、0歳から発症?
- 6. 他の疾病予防も
- 7. モチベーション施策の重要性
- 8. 人間社会への還元

第2節 腸内ケア

- 1. 「フードと便」の関係
- 2. 腸内細菌叢と加齢
- 3. 悪玉菌と疾病
- 4. 悪玉菌はどこから来た?
- 5. 腸内細菌叢は椅子取りゲーム~多様性と悪玉菌
- 6. お腹「健康スコア」と損害率
- 7. お腹「健康スコア」が高いと翌年の損害率は低い
- 8. モチベーション施策
- 9. お腹「健康スコア」アップのための食事サポート
- 10. フードの変更による腸内細菌叢の変化(多様性)
- 11. お腹ケアの推進で動物福祉を更に前進させる

第3章 持続的な成長に向けて

- 1. 持続的価値創出メカニズム~アニコムグループ全体像
- 2. 価値創出のエンジン「一人一特許戦略」
- 3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化

1. 持続的価値創出メカニズム~アニコムグループ全体像



量から質への転換

アニコムグループは世界でもユニークな、生命の一生涯を巡る多様なステージを総合的にサポートするグループ企業体です。 生命の設計図である遺伝子、ペットの健康に影響を与えるフード選択、各種共生細菌叢、疾病・加齢動向等、ペット100万頭規模での連 関データを分析し、多種・大量なデータの「量」を意図的に「質」へと転換しています。

また、健康維持・増進に資する社会学的遺伝産物である知財を産み出し続けるよう組織活動をデザインすることで、持続的価値創出のメカニズムとしています。ペットの健康を増進させ、それらを人間社会にも実装していくことで、更なる価値創出に繋げて参ります。

① 交配サポート 遺伝子検査5万頭/年 累計50万頭以上



② 保険引受 加入総頭数100万頭以上



③ 連関データ結合 保険金422万件*/年

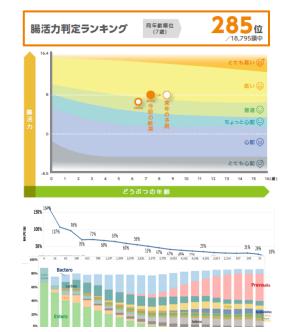
*2022年度実績 | 腸内細菌検査25万件/年



4) 価値創出

特許出願総数48件

うち公開済み21件、権利化済み10件





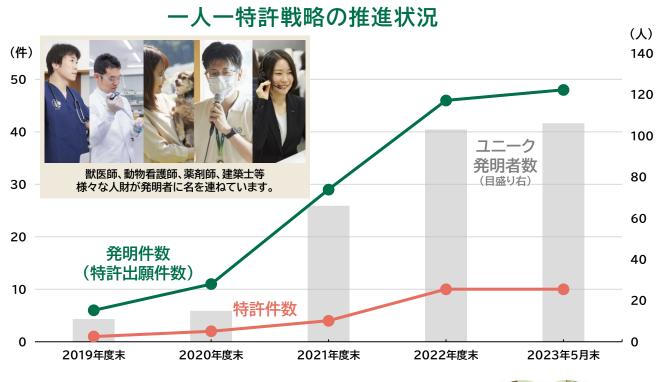
2. 価値創出のエンジン「一人一特許戦略」



社員一人一人が産み出した知財を社会学的遺伝として組織や社会に遺すとともに、より豊かな社会にするために、「グループ社員全員を対象とした一人一特許戦略」の推進を当 社グループの成長力のエンジンとして位置付けています。

当社グループでは、川上である遺伝子データベース、その後の食事選択に関わるデータベース、腸内細菌や口腔内細菌等の共生細菌に関わるデータベース、川下に位置するその 後の疾病発症やどうぶつ達の性格等に関わるデータベース等、様々なデータベースにできるだけ多くの人財がアクセスできるよう配慮しています。また、多様な視点を持つ社員が それぞれの感性に応じた発見・発明を行えるよう、データ分析チームが教育サポートを行います。

これらの工夫により、各人財に備わった個性の数、さらにはそれら個性の組み合わせの数に応じた、無数の価値創出の可能性を創り出しています。それらの努力の結果、個々の 症例からは見えてこなかった疾病発症等の遠因を推計し、後の介入試験によって当該疾病の遠因の存在を統計的に証明することで、実際の健康増進に繋げます。



特許番号	発明の分野	発明の内容
特許6734457	診断、AI	動物が将来疾患に罹患する可能性を判定する疾患予測システム
特許7082647	保険、AI	動物の年齢を予測判定し、当該予測判定結果に基づいて 保険料を算出する保険料算出システム
特許7204852	保険、AI	契約済みペット保険の自己負担分を補償する保険契約の申し込みを 引き受けるかどうかの査定を支援できる装置
特許7169397	AI	動物の写真から、動物の品種、毛色、性別及び個体を識別できる判定システム
特許7199486	AI	動物が近い将来疾患に罹患する可能性があるかを予測する予測装置、 予測システム及び予測方法
特許7204859	AI	動物の性格を判定する性格判定システム
特許6594578	幹細胞	間葉系幹細胞等の細胞を安定に保存することができる細胞の保存方法
特許7018527	幹細胞	間葉系幹細胞等の細胞を安定に保存することができる細胞の保存方法
特許7036324	治療	水素分子を含む水からなることを特徴とする抗血液凝固剤
特許7107824	検査	所定量の試料(糞便等)の採取を容易にすることのできる試料採取器具









3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化 (1)総論



これまでの保険・医療の歴史は、目に見えづらい「リスクや疾病」を見える化する歴史であったと考えています。即ち、保険であれば事故の生じ易さ(急ブレーキやハンドリング癖等)、医療であれば体中の異常の可視化(血液検査・レントゲン等)などです。

しかし、次世代の保険・医療において必要とされるのは、ここから更にもう一歩踏み込んだ、

- ①疾病予防力(事故や疾病が生じること自体を避けようとする力の強さ)
- ②健康維持力(健康状態という恒常性の積極的な維持力)

です。すなわち、疾病の重症度のみならず、未病や健康状態自体のグレーディングを含めた見える化が必要と考えており、これらの向上に向けた飼い主様の自助努力の開始・継続に向けたモチベーション施策を含む技術を磨きます。

そして、ペットが疾病にならないだけでなく、偶然ではない意図的な健康力の向上を可能にするインシュア・ヘルステックについて、保険業界同士の協業は勿論のこと、他業界や大学等との共同研究を含め、多面的な努力で創り上げて参ります。



(1)これまで 「疾病の発見と治療」

臨床医療においては、既に何らかの異常を来した個体について、具体的な異常の検出をもって、特定疾病の診断とし、その後の治療をすることに主眼が置かれていた。 即ち疾病の発見が主でした。

(2)これから 「未病・健康段階での対応」

疾病状態に陥る前の、疾病の遠因となるような状況を 評価等、「未病・健康」のグレーディングを行い、未病・健康 段階でコントロール!

3. 更なるインシュア・ヘルステックの強化 (2)具体的方向性



体調不調や加齢によって生じると考えられている体内の微小炎症は、自覚・他覚症状がないため、これまでの保険や医療ではあまり着目されてこなかったと考えています。しかし、この微小炎症は、その後の状況によっては慢性化し易く、全ての疾病の遠因ともなり、まさに未病と健康の分岐点にある身体状態の一つであると推測しています。

微小炎症は、主として①口腔内、②腸内、③上皮の細菌叢の乱れによる炎症と考えており、当社グループでは足もとはこれらに注目することで、ペットの健康増進に注力していきます。

ヘルステックの創造

3つの健康スコア

①お口「健康スコア」②お腹「健康スコア」③お肌「健康スコア」



日々の口腔ケア、薬に頼らない多様な食選択

インシュアテックの創造

・飼い主様の努力で ペットの健康マネジメントが容易に

・ペットの健康スコアが飼い主様のステータスに



見えなかった未病・健康を見える化し、自らの努力で健康をコントロールできる世界へ





APPENDIX



細菌は様々なところに存在しているが、各部位で特有の菌叢を形成(門レベル)

